

2017年8月20日(日)

説教:「その人に触れて」

聖書:マルコによる福音書1:40~45

イエスは「重い皮膚病を患っている人」に「触れる」とある。この「重い皮膚病」とは「らい病」の事であろうといわれる。今ではハンセン病というが、聖書の時代ゆえ当然感染の恐れがあるわけだが、この時代は重い皮膚病を患っている者は、“汚れた者”と位置づけ、差別し、罪人扱いされていた。しかしイエスは、《深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ》たのである。「深く憐れむ」とは、腸がちぎれるほどに苦しみ、憐れむという意味がある。うちなぐちで言う「チムグルサン」という言葉に似ている。イエスは、この重い皮膚病を患う人の状況をよく知っていたということであろう。“汚れた者”と位置づけられて差別され、罪人扱いされて、どんなに孤独で淋しく、辛い思いをしてきたか……。 「触れる」という言葉は、別の意味で「すがりつく・捕まえる・抱きしめる」という意味がある。ここは「手を伸ばしてその人を抱きしめた」という意味にもなる。

もう一つ。《重い皮膚病を患っている人が、イエスのところに来てひざまずいて願い、「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と》願い出たこの人は、イエスから《よろしい。清くなれ》と言われる。ここはイエスの命令により、「よろしい。清くなれ」と受け取ってしまうが、実はこの原文は、命令形で訳するよりは、むしろ受身形で訳さなければならないとも言われている。岩波訳では、「清くされなさい」とあり、また別の訳では「清められるように」(本田哲郎訳)というものもある。それはどう理解すればよいのか？

一人の重い皮膚病の方がイエスによって完全に癒されたとしても、本当の意味での彼に対する社会の差別や偏見がなくなっていないのであれば、彼の苦しみは取り除かれたとは言えない。「清くされなさい」という受身形で訳する時、それはイエスご自身が「清く」するということよりも、他者によって「清くされなさい」と言うことになる。44 節に《行って祭司に体を見せ、…人々に証明しなさい》とあるが、周りがその人をどう扱い、どう見なすかということが、その人の救い、病や差別からの解放が決定づけられるというもの。差別される側に問題があるのではなく、差別する側に大きな問題がある。「清くされなさい」とイエスがおっしゃった時、この問いは、私たちの側に投げかけられている言葉でもある。

触れてくださる神、抱きしめてくださる神がいることを覚え、この社会からの偏見、差別が私たちの側から無くなることを願いたい。(神谷)